

第3回鳥取県地震防災調査研究委員会（津波浸水想定部会）の議事概要

日時：平成27年6月30日（火）15：30～16：45

場所：県庁第2庁舎3階 災害対策本部室

出席者：香川部会長代理、西田委員、遠田委員、富山委員、長戸委員

有識者として、鳥取大学から栢見教授、黒岩教授、澁谷特命准教授も出席

議題：1 第2回津波浸水想定部会の概要及び検討状況の報告

2 津波断層モデルについて

・F28断層とF36断層、F37断層の連動性について

・F55断層の傾斜方向について

3 今後のスケジュール

議事概要

○これまで、委員から意見等があった津波断層モデルについて、引き続き審議を行いました。

【津波断層モデルに対する意見等】

・F28断層と隣接するF36断層、F37断層を一体とした津波断層モデルを検討すること

・F55断層が南側に傾斜した津波断層モデルを検討すること

○次回部会において、津波浸水想定区域、比較的頻度の高い津波（L1津波）について提示できるよう検討を進めます。

（委員からの主な意見）

○津波浸水シミュレーションの条件（潮位、計算時間等）については概ね了承した。

○F28断層については、隣接する断層との連動性は低いと判断できる。

○境港市（大港神社）に津波が到達したと文献に記載があるので、防災体制の検討時には考慮すべきではないか。

○F55断層については、次のことから「南側傾斜・南隆起」と考えられる。

・探査データ及び重合速度から、F55断層より北側の海底付近に鳥取層群（第4紀）が確認でき、南側では古い地層がのし上がっていることから、南側が隆起していることは明らかであり、圧縮場においては南側傾斜の断層でなければならない。

・海底の深い部分（第3紀）では、F55断層より北側が隆起しているが、探査データから少し引きずられるような構造が見えることから（引張場）、正断層運動により南側が下がったと考えられる。

・重力異常が東西方向に一様であることから、横ずれ運動ではなく、南側が隆起した構造と考えられる。

○仮にF55断層を「南傾斜・南隆起」とした場合においても、国断層モデルによる津波高と大きく変わらないことから、国断層モデルにより津波浸水を想定することも考えて良い。